

或本の歌に曰く

三三三七番

あをによし	奈良山過ぎて	もののふの	宇治川
渡り	娘子らに	逢坂山に	手向くさ
きて	我妹子に	近江の海の	沖つ波
辺を	くれくれと	ひとりそ	我が来る
欲り			妹が目を

反歌

三三三八番

逢坂を	うち出でて見れば	近江の海	白木綿花
に	波立ち渡る		